



世界と歴史を滅亡させる行為 (無謀と気がついてもどうにもできないのか)

(9月のごあいさつ)
平成30年9月1日(土)

先日、創価学会の沖縄研修道場を見学させていただきました。

そこは、かつての米軍「核ミサイルメースB基地」81,000 m²の跡地に、建設された施設であった。その敷地内に取り壊されずに残る“ミサイル発射台8基”を池田名誉会長の提案で、1977年6体のブロンズ像が建つ「世界平和の碑」へと生まれ変わらせたものであった。その平和の碑の下に旧ミサイル発射台の遺跡が保存され、常設の「沖縄池田平和記念附属展示室」があった。核ミサイルメースB基地と同様の発射台は、恩納村、読谷村、勝連町、金武町にも各8基が設置され、そのミサイル一基は、広島原子爆弾の10倍に相当する破壊力があったという。当時、文革の最中にあつたと思われる北京をはじめとする中国の主要都市等に向けられ、ボタン一つで発射が可能とのことであつた。

東京裁判に際して、裁判官の一人であつたインドのパール判事が「ドイツのヒットラーと米国の原爆投下者は、今後の歴史において20世紀の最悪の悪人として糾弾を受けるであろう」と言われた。私は、広島原爆記念会館を見学してその出口のところのテレビを見て、米国のトルーマンが言つていた「戦争の被害を早期に最小化するという原爆使用の正義の説明」には全く納得が行かず、怒りを覚えたことがある。創価学会戸田第2代会長の「戦犯は終身刑で充分、死刑は絶対に良くない。原爆を落とした者も同罪、原爆の使用は悪魔の仕業」という考えには感動した。

死亡者約34万人という広島、長崎の原爆投下の後も、米国に反省はなく、1954年のビキニ環礁における水爆実験による第五福竜丸の被爆は、米国の国益追求であり、やり切れない感じがした。1955年8月6日の第1回原水爆禁止世界大会広島が開催され、集まつた原水爆の反対署名は、日本で3千2百万人を超え、世界で6億7千万人を超えたと報道されている。

1957年9月8日、横浜の三ツ沢競技場で行われた創価学会の「原水爆禁止宣言」において、“原水爆を使用したものは、死刑にすべき”との戸田会長の遺訓も、当然だと感じた。

ヒットラーも、トルーマンも、スターリンも狂人である。

現在も、核兵器を保有し、世界の強国たらんとする米、露、中、とその追従国の様子を見ると情けない。オモチャの戦争ごっこをしているような感覚で、人類と地球の存亡を気にしない各国首脳の国益感覚には言うべき言葉もない。人々は何故、このような狂人の行為を許しているのか理解に苦しむ。